

平成 19年度学術ポータル担当者研修 レポート

大平依理子 (受講番号：1 帯広畜産大学学術情報課専門職員)

中島司典 (受講番号：2 帯広畜産大学学術情報課主任)

(1) 発表資料の状況設定

研究室に出向きゼミの後に時間をとってもらい、教員及び大学院生を対象にリポジトリについての説明とコンテンツの提供を依頼する。

学内の教員には昨冬に研究室を個別訪問し、リポジトリについての説明をして回ったが、現実的には関心を抱いてくれる教員はまだ少ない。

今回の訪問は研究者の卵である大学院生にリポジトリについて広報することはもちろんであるが、教員に対しても改めてリポジトリの利用と文献提供の呼びかけを依頼することが陰の目的である。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、および研修発表との改訂部分

a) 発表内容抄録

帯広畜産大学では、学術情報リポジトリを6月1日より公開している。学術情報リポジトリとは「研究成果の電子的な保管庫」であり、インターネット上から自由に見ることができる。

リポジトリに登録することにより、研究者には「可視性の向上」、「研究成果の半永久的な保存」というメリットがあるといえる。

雑誌に掲載された論文の査読後の最終的な論文をいただきたい。図書館に送るファイルの種類はワードやエクセル、パワーポイント、PDFなどなんでもOK。登録作業はすべて図書館で行う。著作権に関することも全て図書館のスタッフが調べる。

電子ジャーナルとの違いについて。

b) 研修当日の講師からの助言

訪問先の研究室のことを事前に調べておき、その研究室に応じたアプローチをしていくとよいのではないかと。

c) 研修発表との改訂部分

特になし

(3) リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数)

日 時： 平成 19 年 11 月 16 日 (金) 15 : 50 ~ 16 : 00
場 所： 学内講義室
発 表 者： 中島司典 (学術情報課職員)
発表対象： 「アグロエコロジーゼミ」
生態系環境科学ユニットの教官 3 名の合同ゼミ
参加人数： 教員 2 名 + 学生 (学部 3 ~ 4 年生 / 院生修士)
※教員 1 名は都合により未参加

(4) リハプレゼンへの反響

発表内容及びプレゼン技術について、参加者にアンケートを記入して貰った。

- ・「発表内容について」と「配付資料について」は全員が「理解できた」「おおむね理解できた」と回答しており、一定の手応えを感じた。
- ・発表 (口調・態度・声の大きさ等) については「良かった」の数が多かった反面、「あまり良くなかった」にチェックを付けた回答者もあり、プレゼンテーション技術についていっそうの研鑽が必要であると感じた。

(5) その他(備考、今後の予定と希望)

発表についての反省点

- ・参加者についての事前のリサーチが少々不足していた。参加者層の多くが学部生であったので、発表内容にある程度カスタマイズを加える必要があったのではないか。
- ・学部学生を意識するのであれば、特にリポジトリの利用に関してもっと詳しく説明するべきであったと感じた。
- ・時間制限 (「5 分だけ時間をください」と教官に依頼した) があったため、説明が少々急ぎ足になってしまった。

アンケートについての反省点

- ・回答者層を細かく分けなかったため、どの層がどのような感想を持ったかがわからない。せめて教官と学生だけでも別にするべきだったかと思う。
- ・質疑応答の際には意見を述べる学生はいなかったが、自由記入の感想/質問欄には意見・質問があった。アンケートに関しても、何らかのフィードバックの手段 (メールアドレスを任意で記入して貰うなど) を設けておくべきだった。